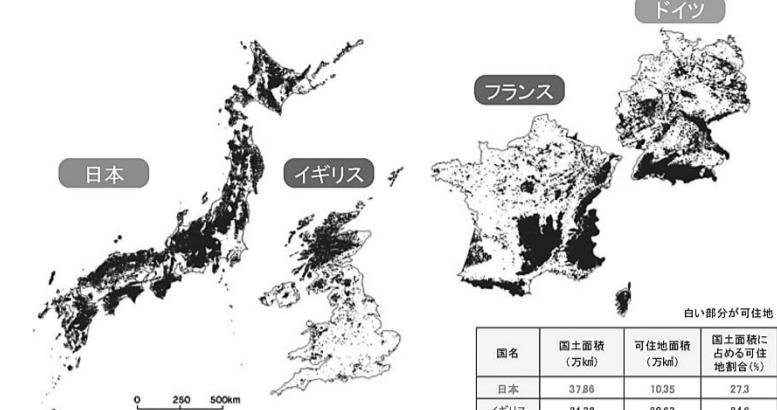
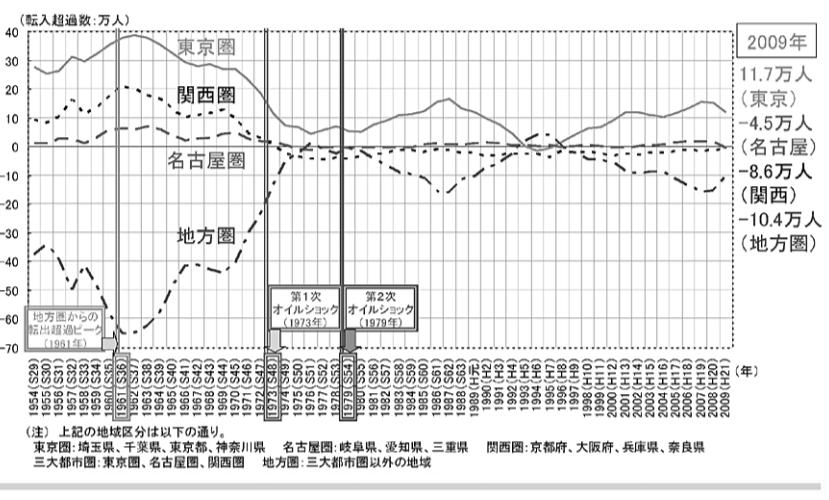


可住地の分布状態の各国比較



出典 地球地図データより国土地理院作成
※この中の可住地、非可住地の区分は以下のとおり。
非可住地：標高500m以上の山地及び現況の土地利用が森林、湿地等で開発しても居住に不向きな土地利用の地域。
可住地：非可住地以外の地域。具体的には、標高500m以下で現況が市街地、畠地、水田、草地、果樹園等
(森林、かん木、まばら木又はかん木を含む草地、まばらな植生(草、かん木、木)、農地と他の植生の混合)の土地利用の地域。

三大都市圏と地方圏人口の推移



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」<http://www.stat.go.jp/data/chouki/zuhyou/02-33.xls> 他

(注) 上記の地域区分は以下の通り。
東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、名古屋圏：岐阜県、愛知県、三重県、関西圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県
三大都市圏：東京圏、名古屋圏、関西圏
地方圏：三大都市圏以外の地域

②狭い平野と軟弱地盤

わが国は西欧に比べ極端に可住地が少ない国である。ドイツは日本より国土面積はやや小さいが可住地面積は日本の2倍以上。国土面積が日本の3分の2しかないイギリスでも可住地面積は日本の2倍、フランスの可住地面積に至っては日本の4倍近くある。わが国では幅の狭い細長い列島を脊梁山脈が縦貫し、それを南北に振り分けて数多くの小さな河川が流れて地域を分断しているため、平野は小さく細切れに分布するしかしながらのが理由だ。この海岸部の平野に東京や大阪、名古屋といったすべての大都市が立地していることに、大きな問題がある。

列島保全への課題

わが国、国土のすがた

河口氾濫区域に都市

人口一極集中の弊害
災害時あらわに

洪水のときにだけ、ドンと水を流す河川の河口部に町がひらけ、都市と運び続けた結果である。長い年月をかけて新たな濫水域というが、日本の大都市は氾濫区域と重なるのだ。ヨーロッパの各都市が、かなり上流の河岸部に立地しているのと大きな違いである。この結果、わが国では氾濫区域の面積は国土の10%しかないのに、人口の50%が、国民の資産の75%が集中している。

大都市の多くは、足元がいわゆる「軟弱地盤」である。約5000年前の縄文時代にまで時代を遡ると、今の関東地方全ても、大阪のある河内平野も、大半が海の中だつた。それが広大な平野に人近くを集めた。

わが国は戦後の経済成長とともに、地方から三

大都市圏に人が集まるよ

うになった。最初のピー

クは1961年。集團就

職列車が走った時代で、

首都圏は他地域から38万

人近くを集めた。

わが国は戦後の経済成

長とともに、地方から三

大都市圏に人が集まるよ

うになった。最初のピー

クは1961年。集團就

職列車が走った時代で、

首都圏は他地域から38万

人近くを集めた。

わが国は戦後の経済成